

2015 年度

東邦大学看護学部 チェンマイ大学看護学部

国際学術交流プログラム

訪タイ学生研修報告書

目次

1. 参加者および研修プログラム
2. 研修日程
3. 研修報告
4. 交流風景

1. 参加者およびプログラム概要

東邦大学看護学部 学生

2年 芋川 有希

2年 峠岡 知花

3年 石川 綾海

4年 柿崎 伸秀

引率教員

其田 貴美枝 在宅看護学研究室 講師

2. 研修日程

プログラム日程 (2015 年 8 月 3 日～8 月 10 日)

Monday 3 August, 2015

6:30 p.m. Arrive in Chiang Mai on flight TG 116
To be met at the airport by the student representatives from the Faculty of Nursing, Chiang Mai University and taken to the faculty dormitory

Tuesday 4 August, 2015 **Room: Dean's office, 2nd floor, Building 4**

8.50 a.m. Pick up at the dormitory

9:00 – 9:15 a.m. Meet with the Dean of the Faculty of Nursing, CMU
Professor Dr. Wipada Kunaviktikul

9:15 – 10:00 a.m. Orientation to the program
Dr. Phanida Juntasopeepun
Assistant Dean for Global and Research Affairs

10:00 – 11:00 a.m. Tour around the Faculty of Nursing, CMU
Mr. Fiontán Ó Ceallacháin

11:00 a.m. – 12:00 noon Extra Curriculum Student Activities at the FON, CMU
Assistant Professor Piyawan Sawasdisingha
Assistant Dean for Student Quality Development Affairs

12:00 noon – 1:30 p.m. Lunch, hosted by the FON, CMU

1:30 p.m. – 4:00 p.m. Study visit: Orthopedic ward and Emergency Room at Maharaj Nakorn Chiang Mai Hospital (University Hospital)
Dr. Chanchai Yothayai

6:00 p.m. Dinner, hosted by Assistant Professor Dr. Phanida Juntasopeepun

Wednesday 5 August, 2015

8:00 a.m. Meet at room no. NT-207, NT building

9:00 a.m. – 12:00 noon Observe student practice in comprehensive community nursing practice:
Collecting Data (Subject 551392)
Dr. Rangsiya Narin

12:00 noon – 1:00 p.m. Lunch

1:00 – 4:00 p.m. Study visit: Community Health Care Service

Dr. Rangsiya Narin

5:30 p.m. Presentations by Toho University, Taipei Medical University, and Chiang Mai University

- Representative from Toho University, Japan
- Representative from Taipei Medical University, Taiwan
- Representative from Chiang Mai University, Thailand

Room: Auditorium 5th floor, Building 4

Thursday 6 August, 2015

Auditorium 5th floor, Building 4

10:00 a.m. – 12:00 noon

Lecture on “Developing a Career as a Nurse Scientist”

Prof. Dr. Usha Menon

Director, PhD & MS in Nursing Science Programs

College of Nursing, The Ohio State University, USA

12:00 noon – 1:30 p.m.

Lunch

1.15 p.m.

Meet at the parking lot

1:30 – 3:00 p.m.

Study visit: Thai Traditional Complementary Medicine (TTCM)

Accompanied by FON Staff

6:45 p.m.

Meet at the parking lot

7:00 p.m.

KhanToke Dinner, Thai Lanna Dining & Shows at Khum Khantoke

Friday 7 August, 2015

9:00 a.m. – 12:00 noon

Join the Elderly Club at 1st floor, building 2, FON, CMU

Assoc. Prof. Dr. Duangruedee Lasuka

12:00 noon – 1:30 p.m.

Lunch

1:30 – 4:00 p.m.

Lecture on “Elderly Care in Thailand”

Dr. Totsaporn Khampolsiri

Room: N4-222

Saturday 8 August, 2014

8:00 a.m. – 12:00 noon

Join the Capping and Pinning Ceremony

Accompanied by nursing students

12:00 noon

Lunch

1:30 p.m.

Visit to Chiang Mai City Arts and Cultural Centre

Visit to Umbrella Village

6:00 p.m. Visit to Walking Street, Wualai Road

Sunday 9 August, 2015

9:00 a.m. Meet at the FON parking lot
Accompanied by nursing students

Visit to CMU Main Campus

Visit to Doi Suthep Temple

12:00 noon Lunch

1:00 p.m. Visit Mae Sa Elephant Camp

6:00 p.m. Visit to the Sunday Walking Street

Monday 10 August, 2015

9:00 – 11:00 a.m. Wrap up and program evaluation
Dr. Phanida Juntasopeepun
Assistant Dean for Global and Research Affairs

Award certificates of attendance to students

Professor Dr. Wipada Kunaviktikul
Dean, Faculty of Nursing, CMU

Group picture

1:15 p.m. Pick up at the faculty dormitory

Leave for Bangkok by flight TG111 (departure time 3:10 p.m.)

3. 研修報告

タイ・チェンマイ大学国際交流研修を引率して

其田貴美枝（在宅看護学研究室）

8月3日から11日まで9日間、タイ・チェンマイ大学看護学部の国際交流研修に参加する学生を引率した。参加学生は、2年生2名、3年生1名、4年生1名の計4名であった。今回の研修は、台北大学看護学部4年生4名との合同研修であった。その内容は、講義、演習、施設訪問であって、タイの保健医療サービスの実際について、効率良く学習できる構成であった。以下、研修の状況を報告する。

医療施設の見学では、チェンマイ大学付属病院とサラフィ病院の2施設を見学した。急性期医療を担うチェンマイ大学付属病院では、集中治療室と救命救急センターを見学した。担当師長さん達は、清潔ケアや看護師の就業状況といった学生の質問に丁寧に答えて下さった。学生は、気候や生活習慣によって清潔のニーズやケア頻度が日本とは異なること、看護師不足については日本と同様の問題を抱えていることを学習していた。地域中核を担うサラフィ病院では、ちょうどチェンマイ大学看護学部4年生2名が実習中であり、その4年次の実習では、救急患者の初期診断や縫合処置などを医師とともに実施していた。看護師の責任範囲は、その国によって異なり看護教育も変わることを学習していた。

伝統医療センターの見学では、伝統医療センターに常駐するナースプラクティショナーより説明を受けた。ナースプラクティショナーは、心身の不調を訴える人の健康状態をアセスメントし、疾病が疑われる場合には医療機関の受診を勧め、そうでない場合には、施術師による温熱マッサージ等の伝統医療を提供していた。伝統医療センターのナースプラクティショナーは、近代医療と伝統医療の間に立って、疾病の早期発見及び身体機能の回復、生活の質を向上させる役割を担っていた。

高齢者ケアについては、専任教員の講義を受講した。講義では、高齢者の生活習慣病を予防するために開発された地域別運動プログラムとその効果について説明を受けた。学生は、講義終了後30分程度教員を囲み質問しており、タイの高齢者ケアを理解するためにも、日本の現状をさらに学習する必要があることを自覚していた。

地域看護学演習では、地域住民の生活の質の調査を目的とした家庭訪問に同行した。この科目は、家庭訪問によって得たデータを集計・分析し、明らかになった地域特性や健康課題を、住民へフィードバックすると同時に、保健センターと情報を共有するという地域看護の実践を学習するものであった。学生は、家庭訪問によってタイの人々の生活を知るとともに、見知らぬ海外研修生を受け入れる人々の大らかさに驚きと感銘を受けていた。

3大学合同意見交換会では、チェンマイ大学からは、入学後間もない1年生から実習を終えて駆けつけた4年生まで、約50名が参加した。プレゼンテーションは、本学より「大学紹介と日本の災害看護」を、台北大学より「大学紹介と看護教育」をテーマに20分ずつ行い、活発な意見交換が行われた。学生は、発表の準備に苦戦をしていた様子だったが、発表を終えて達成感を感じ、新たな課題を見出していた。

チェンマイ大学は、新学期が始まる時期であり、滞在中に新入生オリエンテーションと、3年生の戴帽式を見学した。新入生オリエンテーションと戴帽式は、英語とタイ語の2カ国語で行われていた。学部には、インターナショナルコースが設置されており、英語による講義と出身国での実習が保証されてい

た。大学院では、アジア、アフリカなど多様な文化背景を持つ人々が研究活動を行っていた。チェンマイ大学では、多文化の中で実践と研究と教育がより密に重なり合った形でそれぞれの活動が行われていた。今回、研修で得た気づきを、自身の研究教育活動に生かしていきたい。

この度、企画及び準備をしてくださった国際交流委員の皆様、温かく迎えてくださったチェンマイ大学看護学部の皆様へ心より感謝申し上げます。

研修で学んだこと

2年 芋川 有希

今回の研修で学んだことはたくさんありますが、今回は3つのことについて書いていきたいと思いません。

1つ目は伝統医療についてです。今回、伝統医療を提供してくれる施設に訪問し、タイでは、タイの古式マッサージや、鍼などを医療として、その施設でうけることができることを知りました。そもそも、日本には、そのような伝統医療があるのだろうかと考えたときに、湯治が日本古来の伝統医療にあたるのかなと考えました。しかし、タイのように湯治を医療の一環として行う施設というのが日本には無いと思いました。このことから、タイと日本で伝統医療に対する考え方が異なるということを強く感じました。わたしは、タイのように伝統医療の受けられる施設があることは良いことだと思っていたのですが、先輩や先生は、外科などに代表される西洋医学と伝統医療のような東洋医学とのバランスを取るのが大事と話していたのを聞いて、確かにもし、患者さんが伝統医療を強く信じている人とかだったら病院での治療が難しくなると思いました。何事も偏った見方というのはよくないと感じました。

2つ目は自分の英語力についてです。今回、アメリカの大学の先生がチェンマイ大学で講義を行うということで、その講義と一緒に参加しました。先生の言っていることがなんとなくわかる場面もあったのですが、全体を通して、何について話をしているのか、理解することが難しかったです。元々、英語力にとっても自信があったというわけでもないのですが、今回この講義に参加してまだまだ自分には英語力がないということを改めて実感し学ぶことができました。これからも、大学での看護の勉強も大事にしたいですが、語学の勉強も積極的に行いたいと思いました。

3つ目はタイの文化と病院についてです。チェンマイ大学付属病院の病棟を見学していた時にICUの病室の中にブッタの像があったこと、また、お話を聞いていたら、お坊さんを病室に呼ぶこともできるという話にとっても驚きました。日本は無宗教だったり、宗教に関心のなかったりする人が多いので宗教が入院生活に直接関わるようなことはあまりないけど、タイは仏教の信者が多くて信仰心の強い人が多いからこそ、入院生活についてもこのように違うのだなと感じました。ですが、日本でも病気がよくなるようにと千羽鶴折って飾っていたりもするのでそういった感覚で病室にブッタ像を置いているのかなとも思いました。また、春学期に基礎看護学の授業で清拭の演習をしたので、病院での清拭について尋ねたところ、1日2回行っているという話を聞いて日本と違うなと感じました。1日2回という回数についてはタイの人たちが1日2回シャワーを浴びるのでその回数に合わせて病院でも清拭を行っているという話でした。そのお話を聞いて、病院でやっている看護援助は日本とタイで違いはないけど、自国の文化や習慣に合わせた看護を提供しているということがわかりました。

今年の夏、チェンマイ大学の交換留学に参加しました。1週間と短い期間ではありましたが、学ぶことが多く非常に充実した時間を過ごしました。研修に参加する前は、まだ2年生ということもあり、医療についての知識は乏しく、さらには英語で説明がおこなわれることに不安を抱いていましたが、周りの方々に助けられながら学ぶことができました。

中でも特に印象的だったプログラムは、地域学習についての授業です。その授業では、実際に村へ行き村人から聞き込み調査をするチェンマイ大学の学生に同行し、現地の村の様子を見させていただき、村の方とチェンマイ大学の学生を通してコミュニケーションをとることができました。そこでは、たくさんの驚きと発見がありました。村は道路整備があまりされてなく、野良犬も多くまさに自然の中がありました。しかし建っている家は、もちろん個人差は多いですし、全体を通してどうなのかわかりませんが、私が訪れた家の中には色鮮やかできれいな家があったり、大きなテレビがあったり各家に一つ立派な金色に光る仏壇のようなものがあり、家の中は想像していたよりも快適そうな空間でした。さらに驚いたことは、日本から来た私にとっても親切で、警戒している様子が見られなかったことです。日本なら、現地の学生と見知らぬ外国人がいきなり家に来て、家の事情について聞いてきたら警戒心や不信感を抱くと思うからです。しかも、この調査内容は実際に有力なデータとして用いられるそうです。一緒に同行させていただいた学生の表情は真剣でいきいきとしており、学生が主体的に取り組み地域に貢献できる環境がとてもうらやましく思いました。このプログラムを通して、チェンマイに住む人々の生活環境や医療事情だけでなく、コミュニティの強さや人々の優しさやおおらかさを感じることができました。

また、それは村人に限らず出会う人のほとんどが穏やかな笑顔で私たちを受け入れてくれたように思いました。特にチェンマイ大学の先生方・学生には何度も何度も助けられました。大学の授業に参加させていただき英語が通じない場面では、英語で丁寧にわかりやすく説明してくださり、放課後は次の日も朝早くから授業があるのにもかかわらず、夜遅くまで私たちを案内してくれました。そのおかげで、最初は受け身になりがちであった私も難しいことは言えなかったけれど、徐々に自分の感じたことを積極的に伝えられるようになり自ら学ぶことが出来ました。全プログラムを通して、タイの医療事情についてはもちろん、学生との関わりの中でチェンマイの伝統的な文化に触れることが出来ました。チェンマイに住む人々は、医療を含めあらゆる場面で自分たちの伝統に誇りを持ち大切にしているように思いました。こういった伝統が大切に受け継がれていくことが、コミュニティが強い理由の一つなのかもしれないと感じました。チェンマイで出会った人々のように、相手を思いやり、丁寧なコミュニケーションとることが強い信頼関係を作り出すのだと学びました。

空港に着くと、チェンマイの学生たちが笑顔で私たちの到着を迎えてくれ、温かい気持ちになった。タイに訪れたのは今回が初めてであり、研修参加の目的は、タイの医療はもちろん、歴史、政治、経済、文化など、あらゆる視点でタイについて知りたかったからである。今回の研修では、私たちと同じ時期に台湾からの看護学生も研修に参加しており、共にプレゼンテーションを発表し合い、講義を受けるなど、交流も多かった。特に英語のスキルには圧倒され、刺激的で良い機会に恵まれた。

私は数多くあるプログラムの中で、1つ目に地域看護の講義が印象に残っている。講義は英語で、学生は英語でプレゼンテーションを行っていた。チェンマイ大学では、講義を英語で行う時間が割り当てられている。日本の看護大学では、英語の授業はあるが、おそらく専門的な分野の講義を英語で行うことはない。英語の授業ではなく、英語で講義を受けることで英語のインプットとアウトプットを効率的に行う方法をとっていることが分かった。タイと日本の英語のスキルは同じくらいだと聞いたが、そうでなくなる将来も近いのではないかと感じた。また、実際に地域踏査にも同行したが、驚いたのは、事前のアポがないにも関わらず住民が快く質問に答える姿と、この調査の結果が実際のデータとして正式に取り扱われることである。加えて、質問項目に寺院に行く回数があるなど、宗教との結びつきが非常に強いことが分かった。

2つ目は、伝統医療の施設訪問である。伝統医療というと、村の奥地でひっそりと行われているイメージが強かったが、医師の診察の元で行われており、保険適応であることが分かった。しかし、必ずしも伝統医療が効果を発揮するとも限らず、西洋医療との並行によって、副作用を及ぼす恐れがあるとのことだった。伝統医療を行うときは、あらゆることを考えて行わなければならない。伝統医療は良いものだと考えていた私は、目から鱗状態であった。全てのことに共通することであるが、何もかも良いと決めつけるのではなく、疑問に思い、立ち止まって考えることの大切さを改めて感じた。

今回の研修において、講義をはじめ、病院見学、戴帽式への参加、英語でのプレゼンテーション発表など貴重な経験ができた。この研修に参加して終わりではなく、ここからが始まりであると考え。タイでは少子高齢化や看護師不足が進んでいるという。これは医療だけの問題にとどまらず、様々な問題が関連しているだろう。冒頭でも述べたように、医療という視点だけにとらわれず、あらゆる視点での知識も持たなければならない。今回の研修で、全ては網羅することはできなかったため、不足している知識を補う必要があると考える。

最後に、充実した研修期間を過ごすことができたのは、チェンマイ大学の教員やスタッフ、学生のおかげであると強く感じている。今度は、こちらが迎え入れる番である。タイの学生にも日本で充実した日々を過ごしてもらえよう、自分としてできることを精一杯尽くしたいと考えている。

私は入学してから海外に渡航するたびに、その国の医療・看護に結び付く情報を得ようと行動している。しかし今回の研修では大学間が協定を結んでいるからこそ経験できると思われるプログラムが多くあり、とても貴重な学びを得ることができた。

今回の研修にて特に印象的だったことを3つに絞ると、チェンマイ大学での看護教育、病院の見学、チェンマイ大学の学部生としての積極性の高さである。

看護教育では単科としての英語科目ではなく、看護専門科目においても以前は5%を英語で受講が必要だったが、現在は4倍の20%となっている。5時間のうち1時間は英語となると、ほぼ2か国語の看護を学んでいることになる。また私たちのプログラムを指揮して頂いた先生方も皆、英語が堪能であり、多くの先生方が英語対応できることで、それを可能にしている。個人差こそあるものの、全ての学生が英語でのコミュニケーションがとれ、日本でよくある外国語の壁は感じられなかった。また私たちのアテンドの学生は皆コミュニケーションの取り方が上手で、外部の人と話すときも円滑な話を進めていた。今回頂いたプレゼンテーションの機会では、ただでさえスライドづくり、スクリプト、どのような話し方をするか、と用意が大変だが、さらに英語であるため、ハードルはかなり上がった。タイの学生は慣れている様子だったが、私たちは今回のようなプレゼンテーションの経験は日本ではあまりできないし、ホームではないという違いだけでかなり差があり難くなるので、今回経験することができたことはとても貴重だと感じる。また台湾の学生のプレゼンテーションはとても慣れている様子で、プレゼン内容の大学の教育内容が充実していることにとても驚いた。オスキー、ゴスキーはおそらく医学部では聞く言葉かもしれないが、私は今回初めて聞く言葉で調べてみると取り入れている大学は日本にもいくつかあった。オスキーは個人の臨床スキルとして、ゴスキーはチーム医療の意義が高く評価されている日本においても、看護職として必要なスキル向上のためにとても有効であると、東邦学生一同、口をそろえた。タイでも同様のテストがあるようで、これらの看護教育からも彼らの対応力やコミュニケーション力は発展していくと感じた。

また地域看護の授業では、座学にて学んだことを実践としてそれぞれの学生が単独で家庭訪問する。その際、健康調査をするのに同行させて頂いたが、この学生が行う調査は行政と直結しており、実際に地域の情報として利用されるという。学生が行う家庭訪問は行政の活動に直結するため、学生のうちから地域に貢献し、責任ある活動を実施することは、卒後の看護実践やキャリアプラン作成のためにも非常に役に立つと感じた。

病院の見学では、今回大学病院とコミュニティーホスピタルを見学させていただき、タイの医療保険制度、病院区分の医療提供体制についても学んだ。行政区分別に医療機関が定まっており、より高度な医療が必要なときに、コミュニティーホスピタルから大学病院へ移送となるのが特徴的で、移送専従スタッフもいる。日本ではクリニック、病院という2つの区分だが、タイでは4つに分かれており、それぞれの医療機関の役割が明確である。また大学病院のERでは4時間で患者を移すこと、48時間以内の再来院、ICについて、緊急性の高い疾患などについての目標を掲げ、日々の業務の改善を行っていた。病棟での特徴としては、大部屋ではエアコンがなく扇風機を利用しており汗をかきやすいため、清潔ケ

アとして一日2回清拭をすることもあったり、ICUには病室にもかかわらず神棚があることや、週に2、3回は僧侶が患者のもとへお祈りすることもあるようで、タイの気候、文化により看護の内容も変わることを実感した。

最後にチェンマイ大学の学部生の積極性について言及したい。学内には学生主体の多くの組織があり、今回の welcome party も student union の学生が企画してくれ、その中でもいくつかのクラブが参加していたり、音楽機材や食事、場所の用意などを手配してくれていた。チェンマイ大学は協定大学が数多くあるため、こうした会を開催するのも手馴れているのか、運営は滞ることなく進み、忙しい時期のなか学生主体で催事を行う彼らの行動力にとっても感心した。またキャッピングセレモニーでは看護学部全体で、フレッシュマンパーティーでは全学部で学生が参加するイベントにも参加し、学生とは思えない完成度だった。私の彼らの印象はとても気を使う優しさを持つ反面、積極性と協調性を強く併せ持つという素晴らしい姿勢がある。今後もその姿勢を見習い、彼らの姿を忘れることなく看護を実践していきたいと思った。

海外に行くたびに、日本で生活していれば当然と感じ、普段気にもかからなくなっている多くのことに気付く。今回は同じ大学で面識がある3人と行動を共にし、普段一人では気づけないところを発見したり、同じ看護を学んでいるものとしての意見を交わすことができ、タイの医療・看護・文化を知ることで多くの学びとなった。また、双方の研修プログラムで時間を共にしたチェンマイ大学の学生からも、タイの看護学生の価値観や将来のビジョンについてなど、勉強面だけでなくいち生活者としての意識の高さを感じたとともに、同じ看護学生として学ぶべき点が数多くあった。タイ人特有とも言えるやさしさを感じたり、微笑みを見るたびに、看護職としての適性を大いに実感し、日本に戻った際も、患者のみならず、あらゆる人との触れ合いの場で自分も同様の対応を心掛けたいと思うなど、見習うべき点も数多く感じた。最後の夜にアメリカで初等・中等教育の時代を過ごしたというチェンマイ大学の学生と話しをしたとき、彼女はタイの文化や仏教についてとても詳しく、他の学生が母国語で説明することも難しい内容を英語で説明してくれた。自分がどれだけ自国について、ましてや英語での説明をすることができるだろうか。

今回の8日間という期間は旅行とすれば長いですが、一日一日と学びが深まる度に疑問も多くなり、そんななか研修は終了となった。しかしタイ、台湾の学生と時間をともにし、充実した多くの研修プログラムを経て、この研修に参加することで私は一人の生活者として、また看護職としての多くの気づきができた実感している。この経験を活かし、自国にいてもいつも何かを感じる姿勢を保ち、より多くのことに疑問や興味を持ち、今後の啓発に励んでいきたい。

4. 交流風景

施設見学



地域看護学演習



3 大学合同意見交換会



文化交流会



戴帽式



修了式



国際交流委員会

委員長	近藤 麻理
副委員長	松永 佳子
委員	市山 陽子
	天野 里奈
	東 園子
	後藤 喜広
	山本 陽子

2015 年度 東邦大学看護学部 チェンマイ大学看護学部
国際学術交流プログラム 訪タイ学生研修報告書

発行日 2016 年 3 月 31 日

発行 東邦大学看護学部看護学科 国際交流センター委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03 (3762) 9881

